

## その他

### 1.

原文で右記や左記とある場合、点訳では上記、後記とした方が良いでしょうか。それともあくまで原文通りとすべきでしょうか。

【A】

文脈によって判断することになります。

「右に同じ」「左（さ）のごとく」のような慣用的な表現や、文章を指して「～については右記（左記）の通りである」という場合は、基本的には原文通りに書きます。ただ、表や図の位置を示す場合や、「右ページに述べたとおり」など具体的な位置を示している場合は、点字では「ウエノ」「シタノ」「〇〇ページ」など、点訳書での位置を示す表現に換えるのが一般的です。

「その他」に掲載しているQ & Aに、言い換える場合の注意点がありますので、参考になさってください。

### 2.

野球の打順のあとに守備位置をカッコで示しています。この時のカッコの表記を教えてください。

例 1（中）高山

2（三）橋本

3（左）バティス 以下9番まで

【A】

1 ■■（センター）■■タカヤマ

2 ■■（サード）■■ハシモト

3 ■■（レフト）■■バティス

のように書くのが分かりやすいと思います。

必要があれば、最初に、《守備位置は漢字で略記されているが、ファースト、セカンドのように記した》と断ります。

### 3.

絵本の原文に第1カギ付きの会話文が多く出てきます。絵を見れば誰が言っているのかわかりますが、原文だけの点訳では誰が言っているのかわかりません。その場合、会話文の前に点訳挿入符で言った人を入れてから、第1カギで囲んだ会話文を

続けるのは、正しい方法でしょうか。点訳挿入符の閉じと第1カギの間のマスあけは一マスでよいでしょうか。

例)「山へ帰ろう」 ※絵では、たぬきくんが言っている。

■■②③⑤⑥②③⑤⑥タヌキクン②③⑤⑥②③⑤⑥■③⑥ヤマエ■カエロー③⑥

※数字は点訳挿入符と第1カギ、■はマスあけを表す。

#### 【A】

絵本の点訳については、点訳の仕方を一概に決めることはできず、原本の対象年齢や点訳書を読む方の年齢などを考慮して、決定することになると思います。

絵の補足をしないと内容が理解できないような、絵に重点が置かれた本の場合は、第1カッコで囲んで最小限度の情景説明が必要になると思います。

■■ (たぬきくんがみんなにむかって)

■■ 「山へ帰ろう」

のような形で、補足してはどうでしょうか。

「てびき3版指導者ハンドブック」第5章編 p29～p30の「コラム 漫画の点訳」の説明の入れ方も参考にしてください。

「サピエ」にアップする場合は、点訳書凡例を入れて、補足したことを断ります。対象年齢が低い場合は、点訳挿入符などの複雑な記号は使用しない方がよいと思いますし、表現も絵本に合わせて簡潔にします。

プライベートの希望や特別支援学校の依頼などで点訳する場合は、父兄や先生と点訳方法を打ち合わせて、点訳書凡例などは入れない方がよいと思います。

#### 4.

幼児向けの絵本『ちよつとだけ』瀧村有子作の点訳についてお尋ねします。

絵に対するお話が1～4行ほどで短いのですが、原本と同じにそれぞれページを替えて書くのでしょうか。それとも行あけをして続けて書くのでしょうか。その場合、お話の中で1行あけをして書かれている箇所もあるので、2行あけて続けることになるのでしょうか。点訳すると改ページとした場合奥付も入れて24ページ、行あけをして続けると12ページになります。

サピエ図書館に登録するものですが、「読んであげるなら3才から、自分で読むなら小学校初級向き」とありますので、子供さんの読みやすさを考慮して両面点訳ではなく18行設定で裏面に改ページマークを入れて表面だけに点訳して登録することは可能でしょうか。

#### 【A】

『ちよつとだけ』は、全体で一つのお話しですので、ページが変わるところでページ替えはせずに、1行あけでよいと思います。ページの中に1行あけの箇所があっても、どちらも1行あけにします。あけ幅の違いによる効果はほとんどなく、ペー

ジ替えのところもページの中の行あけも、話の間や切り替えなどを意味していますので、効果は同じです。

ただ、絵本ですので、絵の説明を全くしないで文だけを読むと理解できない部分もあると思います。

たとえば、一人でパジャマに着替えることに「ちょっとだけ成功しました」とありますが、これだけでは、内容が伝わらないので、「左右のボタンがひとつずつずれている」ことを説明するなどの工夫が必要ではないかと思います。

すべてのページには必要ないと思いますが、おそらく「ちょっとだけ」の内容の説明は必要ではないかと思います。

その場合、小学校低学年の読者が、一人で読むのに分かりやすい表現を用いることや、複雑な記号類は用いないことなどの配慮が必要になります。

サピエに登録する場合は、両面印刷、32マス、18行が標準ですので、そのようにするのがよいと思います。

片面印刷、32マス、18行で登録する場合は、裏面に改ページマークを入れると共に、ページ付けも、奇数ページに1, 2, 3とページを付けていきます。また、サピエの書誌の製作注記にその旨断る必要があります。

そうすると、標準の形で印刷したい施設・団体では困りますので、標準の形でアップしたほうがよいと思います。

## 5.

原本は77ページの小学低学年向け絵本で、見開きページに絵が書いてあります。絵は本文を読めばわかりますので、説明は不要でしょうか。基本的には説明は入れた方がよいのか入れなくてもよいのか迷っています。

挿入するとすれば、各ページの文が終わった後に、行開けせずに説明を点訳挿入符で囲んで挿入し、次行を開けて次の文を書く……を繰り返すでいいでしょうか。

### 【A】

絵本の点訳では、絵が中心になっていてその絵を見ないと物語の内容が理解できないものか、文章を読めば物語の内容が理解できるのかによって、点訳の方法が異なってきます。

77ページの低学年向けの本であれば、文章が中心の読み物だと思いますし、本文を読めば分かるということです。絵の説明は入れなくてもよいと思います。

どうしても絵の説明が必要な場合だけ、点訳挿入符で説明を入れるようにすればよいと思います。各ページの文が終わったところに入れるのか、該当する文の文末に入れるのかなどは、その絵によって判断してください。

## 6.

漢字の読み方を説明している原本です。

例えば、

浅 [音] せん [訓] あさーい

[訓] の送り仮名は「あさ・い」などと書かれています。ハイフンや中点の扱いはどのようにすればよいでしょうか？

### 【A】

原本の通りには点訳できませんので、書き方を点訳書凡例または点訳挿入符で断って書きます。

《音読みを先に書き、カッコ内に訓読みを書きます。第1つなぎ符の後ろは送り仮名です。》

または、

《音読みを先に書き、二マスあけて訓読みを書きます。送り仮名は第1つなぎ符の後ろに書きます。》

などのように断ります。

セン（アサ③⑥イ）のようになります。

## 7.

ハガキ書類などの期限を記す紙面でよく「有効期限 年 月」のように、空白で記入欄を表しているものがあります。この場合は、点字ではどのように表したらよいでしょうか。方法として考えたのは、

- (1) 伏せ字を用いる
- (2) 空欄記号を用いる
- (3) 「メメ」を用いる
- (4) 年月を記入する欄がある旨点挿にて説明する。

時と場合によって使いわけを行うのもよいかと思っています。

### 【A】

「有効期限 年 月」の場合、いくつかの書き方があると思います。

1. 読み手がそこに記入するための空欄で、記入欄を明らかに示したい場合は空欄記号を用います。たとえば、申請書などの書類で、記入箇所を明らかにする場合です。

2. 領収書などで、月日を入れないような場合は、二マスほどマスあけをするだけの場合もあります。

3. 本来何か数字が入っているはずの場合、余り用いませんが、伏せ字の××を入れることもあるかもしれません。

年月日・氏名・年齢・性別などを記入する欄があることをまとめて説明するような

場合は、点訳挿入符を用いることもあると思います。

## 8.

料理本を点訳しています。原本は次のようになっています。

ほうれん草・・・一束

A 薄力粉・・・大さじ2

牛乳、生クリーム・・・各100ml

卵（Mサイズ）・・・3個

ベーコン・・・4枚

材料名と分量の間は、点線、棒線、一マスあけ、二マスあけなどのどれがいいでしょうか。原本が点線の場合は点線にしたほうがよいのでしょうか。

Aの部分の書き方も、Aの後棒線を使う、小見出し符を使う、一マスあけて第1カギで囲む（上記の場合卵まで）、Aの後続けて第2カッコで囲むなど、いろいろ考えられますが、第2カッコを使った場合、（Mサイズ）は二重カッコにするのでしょうか。

点訳本の中で統一されていればどのような書き方でもよいと思いますが、お勧めの書き方はありますか。またこのような書き方はしない方がよいということはありませんか。

### 【A】

レシピの書き方は、原本によっても様々ですので、そのタイトル内で統一した書き方になっていれば、よいと思います。

たとえば

7マス目から 料理名

5マス目から 材料と分量

5マス目から 作り方

にして、

材料名と分量の間は、二マスあけにして、材料名ごとに行替える

A. ■点線■ハクリキコ■オオサジ■数2、■ギューニユー・■ナマクリーム■カク■数100外ml、■タマゴ（外大M■サイズ）■数3コ

のように、A. のところは、書き流す。

A.のところで、材料をカッコ類で囲むと、その中にカッコが使われていたりしますので、点線などを用いた方がよいと思います。できるだけ囲みの記号は用いずにシンプルに書きます。

作り方の順番は、数字のうしろにピリオドを付ける形を用いた方がよいと思います。原文の説明のなかにカッコが用いられている場合が多く、そのなかに順番の（1）

(2) など出てくると、二重カッコを用いることになり、読みにくくなります。このような表現が全く無い原本でしたら、原本の通りに、順番の数字を第1カッコで囲んでもよいと思います。

9.

点訳をしている時「原文に忠実に」との意見が出されます。原文に忠実。ふと考えてしまいました。点訳での原文に忠実とはどういうことでしょうか。

記号などは原文に忠実がよいのですか。特にサピエに出す本については原文忠実がよいですか。

【A】

「原本に忠実に」は、議論になるところですが、「てびき」第1章のまえがきに書いてあるのは、「墨字原文を、その内容にできるだけ忠実に点字に置き換えること」です。墨字の書き方や記号などを、そのまま忠実に点字で書くのではなく、「内容」に忠実と言うことですので、そこがポイントになると思います。

墨字の内容を理解したうえで、それに適した点字に置き換えることになります。とくに記号類は、墨字と点字では用法が異なる記号が多いので、墨字・点字それぞれの記号の用法を理解した上で、点訳することが必要になります。

10.

今、団体の中で点訳をし、校正を重ねていき点訳本を作っています。その中で「原則は～だ」の意見が出てきます。原則を点訳の本を作る中ですべて取り入れて本を完成させた方がよいのでしょうか。私達が本を読み、点訳する時どうしても点訳者が原本から読み取ったものが点訳本に反映されてしまい、出来上がる点訳本にも違いが出てきます。それをどう考えればよいのでしょうか？

点字の原則に対して「～ができる」と「てびき」に書かれていることに対しての「原則」です。原則が一番ならば「～が出来る」と「てびき」に書かれているのはなぜでしょうか。

【A】

「てびき4版」の「～ができる」には、

A. 施設・団体としてこちらを選ぶことができる

B. 原本によって、または文脈によってこちらを選ぶことができる

の2種類があります。

また、内容としては

C. 原本にかかわらず、このような点訳ができるという「できる」

D. 原本によって判断する

E. 文脈によって判断する

F.「表記法」との整合性から掲載したが、「てびき」としては、お勧めではないの4種類あります。

「できる」は、「てびき」には以下のページがありますが、上のことを考慮しながら分けてみると

1. 施設・団体として判断し、原本にかかわらずその方法を用いる。

p31 【備考】(上の【備考】)

p35 (3)

p187 3. (1) 区切り線 ① 【備考1】

2.「表記法」に記載があるので「てびき」でも取り上げたが、この「できる」は、殆ど使用しない。または、一般書では使用しないことをお勧めする。

p85 【備考】

p113 【備考】

p114 【備考】

p120 (2)

p124 【処理1】

p129 (4)

p133 【備考】

p143 【備考2】

p148 【処理1】

p170 【処理3】

3. 前に書いてある条件を満たせば、「できる」の処理がお勧め。このように点訳することをお勧めする。

p42 【処理】

p76 【処理】

p106 【処理2】

p108 【処理2】

p116 【処理】

p133 (3)

p149 【処理】(下の【処理】)

p174 1.

p188 ②

p188 ⑥

p194 (4)

p198 (1)

p201 【備考】①

p203 (1)

4. 上記以外の「できる」は、原本や文脈によって判断が必要になります。

p24 【備考】：「表記法」に記載は無いが、上記 2. と同じ処理。特別な事情がない限り一般書では用いない。

p31 【備考】：「特に必要があれば」、3. に近い。

p40 【処理】

p115 【備考】

p122 【処理】

p125 (4)

p134 【処理】

p136 (1)

p149 【処理】（上の【処理】）：「行末があきすぎる場合」の判断を施設・団体で決めて用いる。

p149 【備考】

p159 【備考】

p167 【処理 2】

p187 3.

p188 ①

p200 (1)

p208 【処理】

また、以下の「できる」は、児童書や、点字を読み慣れていない人へのプライベートサービスなどの場合を中心に考慮することになります。

p25 【処理 1】

p117 【処理】

p119 【備考】

p119 【処理】

p119 【処理】

多くの場合、4. の【処理】で迷いますが、「どちらでもよい」というニュートラルな意味での【処理】もあり、そのような場合は、日頃の勉強会などで、個々に判断することになると思います。